課題番号　　：26指1
研究課題名　：日本から東南アジア、アフリカへの有効なユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）支援の研究
主任研究者名：村上　仁
分担研究者名：村上　仁、島崎謙治、小林廉毅

キーワード　：ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、UHC、皆保険、社会経済要因、インフォーマルセクター
研究成果　　：
(1) 研究期間を通じての研究計画及び達成目標
国際保健外交政策の１つの柱である、開発途上国に対するユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）支援事業を具体化する方策を考案することを目的とし、3 つの班に分かれて研究を実施している。

①東南アジアならびにアフリカ諸国の UHC に向けた進展状況と、異なる財政措置の保健サービス供給と保健医療支出への影響を明らかにすることを目的として、東南アジアやアフリカの開発途上国の UHC の現状分析を行うとともに、調査結果に基づき、日本の国民皆保険の経験等をも踏まえた日本発の UHC 支援項目や実施案、途上国の UHC 進展のモニタリング評価指標の設定と測定法を考察する。
②開発途上国が UHC を実現する際の課題と日本の国民皆保険の経験から得られる政策的示唆をマッチングさせることにより、開発途上国の UHC の実現に資する。
③東アジアや東南アジアの UHC 達成国（進展中の国を含む）における UHC の歴史的経緯や社会経済状況を調査した上で、UHC の実現可能性と持続可能性を高めることにつながる施策・制度について分析し、日本の支援事業として具体化できる方策を考案することを目的とする。
研究計画としては、東アジアや東南アジアの UHC 達成国（進展中の国を含む）における UHC に向けた政治的意志（political will）、行政基盤の整備の度合い、公的医療保険の現状、国民医療費の規模、経済発展の状況、皆保険に向けた国民の意識の醸成度などについて、既存資料の調査や関係者からの聞き取り調査に基づいて分析を行う。また、UHC においてカバーすべきサービスの優先順位や財源、どのような集団から加入を進めるべきか、また、保険運営実務に必要な人材の規模とその確保・養成のあり方などについても検討し、当該国の社会経済情勢を勘案した上で、UHC の実現可能性や持続可能性を高めるための施策・制度設計に向けて、日本の支援事業として具体化できる方策を考案する。

(2) 3 つの班の平成 28 年 4 月 1 日時点での進捗状況は、それぞれ以下の通りである。

①ベトナム、ラオスでの現状調査の実施、ベトナムおよびケニアを対象とした UHC 研修の実施、これらを踏まえて、UHC 達成に向けてのモジュール作成、等を実施した。現状調査では、農業従事者などインフォーマルセクターの取り込みが両国で課題であることが示唆された。UHC 達成のためのモジュール作成では、研修での質疑応答等を踏まえ、UHC の導入状況に合わせ、導入前期と導入初期に分けて作成する予定である。
②日本の国民皆保険の成功要因に関する歴史分析、UHC と感染症対策の関係に関する分析・考察、台湾・韓国・中国との比較研究、等を実施した。
③タイ、フィリピン、台湾、韓国、日本の UHC の進展状況について、既存資料の調査や関係者からの聞き取り調査を行って各国の UHC の特徴を明らかにした。このうち、比較的短期間で UHC を普及させた台湾については、国民の支持率も高いことから参考になる点が多いことが示唆された。また、タイの事例では、国民の異なる層に対して、段階的に医療保障の枠組みを提供してきたことが、日本の UHC の歴史的経緯と共通していることが示唆された。韓国を対象にした検討においては、財源として保険料のみならず税収（公費）を併用することや、医療保険の優先順位を日常的な疾病治療におくか重症疾患におくかという問題が論点として示唆された。今後、どのような要因が UHC の導入段階において有用であるか、また持続可能性を高める要因は何かを整理、分析し、結果の取りまとめを行う。

（以　上）

Subject No. : 26-1

Title : Research on effective supports to the Universal Health Coverage (UHC) from Japan to Southeast Asia and Africa

Researchers : Hitoshi Murakami, Yasuki Kobayashi, Kenji Shimazaki

Key word : Universal Health Coverage, UHC, Universal Care, Socio-economic factor, Informal sector

Abstract :

(1) Research plans and goals throughout the study period

This research group consists of three research groups, aiming to suggest effective measures and supportive systems towards the Universal Health Coverage (UHC), which is one of major international health foreign policies of the Government of Japan.

① This group aims to clarify the status of progress towards UHC and the impact on health service delivery and the health expenditures with different health system in Southeast Asian and African countries by situation analysis. Based on the results of the analysis and the experiences of Japan that has accomplished UHC, this group also aims to suggest supportive and working plans and monitoring indicators of UHC progress in developing countries.

② This group aims to contribute developing countries towards UHC by matching challenges arising from developing countries and policy implications resulted from the experiences of Japan that has accomplished universal health insurance coverage.

③ This group aims to suggest measures and systems with sustainability and feasibility towards UHC for developing countries by analyzing the historical background and socio-economic conditions in East Asian and Southeast Asian countries that has accomplished UHC (including the country in progress). The interviews and literature reviews are going to be conducted to clarify such as political will towards UHC, the degree of development of administrative infrastructure, the status of public health insurance, the scale of medical expenditure, the situation of economic development, the degree of public awareness towards UHC.

(2) The progress of each of the three groups on 1st April, 2016 is as follows:

① The situation analysis was conducted in Viet Nam and Lao PDR. The UHC trainings were conducted for delegates from Viet Nam and Kenya. Based on the results of the analysis and the trainings, reference modules towards UHC in developing countries are going to be prepared.

② Historical analysis of the success factors of the national health insurance in Japan, analysis of the relationship between health systems against infectious diseases and UHC, comparative study with Taiwan, South Korea, China, etc. were carried out to draw policy implications in Japan.

③ The interviews and literature reviews revealed some characteristics towards UHC in Thailand, Philippines, Taiwan, South Korea and Japan towards UHC. For example, health insurance has been provided in a step-by-step manner for the people of the different layers in Thailand, similar with the historical background in Japan. In South Korea, whether the priority of the medical insurance put on common diseases or severe diseases has been discussed. Further analysis will be conducted to reveal what kinds of factors are useful at the introduction stage of the UHC, and also what kinds of factors increase in sustainability towards UHC.

Researchers には、分担研究者を記載する。

課題番号　：26 指１

研究課題名：東南アジア・アフリカにおけるユニバーサル・ヘルス・カバレッジの研究

主任研究者名：村上　仁

分担研究者名：村上　仁

キーワード　：ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、インフォーマルセクター

研究成果　　：

（1）研究期間を通じての研究計画及び達成目標

東南アジア諸国（ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ）ならびにアフリカ（ケニア等）のユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）に向けた進展状況と、異なる財政措置の保健サービス供給と保健医療支出への影響を明らかにすることを目的とする。

研究計画としては、東南アジアやアフリカの開発途上国の UHC の現状分析を行う。結果に基づき、日本の国民皆保険の経験等をも踏まえた日本発の UHC 支援項目や実施案、途上国の UHC 進展のモニタリング評価指標の設定と測定法を考察する。

（2-1）平成 28 年 4 月 1 日時点での進捗状況

予定どおり、①ベトナム、ラオスでの現状調査の実施、②ベトナムおよびケニアを対象とした UHC 研修の実施、③以上を踏まえて、UHC 達成に向けてのモジュール作成、等を実施した。

本年度の学術業績としては、以下が挙げられる。

【論文】Akashi H., Osanai Y., Akashi R. (2015) Human resources for health development: toward Universal Health Coverage in Japan. *BioScience Trends*; 9(5):275-9.

【学会発表】 Sayavong, C., Matsubara, C., Yokobori, Y., Yamamoto, S., Murakami, H. ‘Fact finding study on the effects of health insurance for universal health coverage at a semi-urban area in Lao PDR’ The 9th National Health Research Forum (ラオス国家保健研究フォーラム) (2015 年 10 月、ビエンチャン)（口頭発表）

村上仁、横堀雄太、松原智恵子、明石秀親、山本佐枝子「日本とベトナム・ラオスの医療保険 : 制度比較からみる協力可能性」第 30 回日本国際保健医療学会 (2015 年 11 月、於金沢大学）（口頭発表）

Yokobori, Y., Matsubara, C., Murakami, H., Yamamoto, S., Sayavong, C. ‘Situation analysis of health insurance for universal health coverage (UHC) in Lao PDR’第 30 回日本国際保健医療学会（2015 年 11 月、於金沢大学）（口頭発表）

（2－2）計画未達成理由、（3） 当初の研究計画との変更、については、計画通り進捗しているため非該当である。

課題番号　　：26指1
研究課題名　：東南アジア・アフリカにおけるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の研究
主任研究者名：村上　仁
分担研究者名：村上　仁

キーワード：ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、インフォーマルセクター

研究成果　：

（1）　研究期間を通じての研究計画及び達成目標

東南アジアやアフリカの開発途上国のUHCの現状分析を行う。結果に基づき、日本の国民皆保険の経験等をも踏まえた日本発のUHC支援項目や実施案、開発途上国のUHC進展のモニタリング評価指標の設定と測定法を考察する。

（２－１）　平成28年4月1日時点での進捗状況

予定どおり、①ベトナム、ラオスでの現状調査の実施、②ベトナムおよびケニアを対象としたUHC研修の実施、③以上を踏まえて、UHC達成に向けてのモジュール作成、等を実施した。

（２－２）　計画通り達成できなかった場合、その理由と対応方法　　非該当

（3）当初の研究計画及び目標の変更がある場合、その理由　　非該当

課題番号　　：26指1
研究課題名　：東南アジア・アフリカにおけるユニバーサル・ヘルス・カバレッジの研究
主任研究者名：村上　仁
分担研究者名：村上　仁

本年度の学術業績としては、以下が挙げられる。

【論文】

Akashi H., Osanai Y., Akashi R. (2015) Human resources for health development: toward Universal Health Coverage in Japan. *BioScience Trends*; 9(5):275-9.

【学会発表】

Sayavong, C., Matsubara, C., Yokobori, Y., Yamamoto, S., Murakami, H. ‘Fact finding study on the effects of health insurance for universal health coverage at a semi-urban area in Lao PDR’ The 9th National Health Research Forum（ラオス国家保健研究フォーラム）（2015年10月、ビエンチャン）（口頭発表）

村上仁、横堀雄太、松原智恵子、明石秀親、山本佐枝子「日本とベトナム・ラオスの医療保険：制度比較からみる協力可能性」第30回日本国際保健医療学会（2015年11月、於金沢大学）（口頭発表）

Yokobori, Y., Matsubara, C., Murakami, H., Yamamoto, S., Sayavong, C. ‘Situation analysis of health insurance for universal health coverage (UHC) in Lao PDR’第30回日本国際保健医療学会（2015年11月、於金沢大学）（口頭発表）

課題番号　　：26 指１

研究課題名　：日本の国民皆保険の経験を踏まえた開発途上国における UHC 実現の要諦に関する研究

主任研究者名：村上　仁

分担研究者名：島崎謙治

キーワード　：国民皆保険、インフォーマルセクター、人口構造、感染症、農村医療

研究成果　　：

（1）研究期間を通じての研究計画及び達成目標

開発途上国が UHC を実現する際の課題と日本の国民皆保険の経験から得られる政策的示唆をマッチングさせることにより、開発途上国の UHC の実現に資する。

（2－1）平成 28 年 4 月 1 日時点での進捗状況

予定どおり、①日本の国民皆保険の成功要因に関する歴史分析、②UHC と感染症対策の関係に関する分析・考察、③台湾・韓国・中国との比較研究、等を実施した。

本年度の学術業績としては、以下が挙げられる。

【論文】

島崎謙治「日本の国民皆保険の本質と意義」健康保険,2015 年 5 月号,pp. 20-23

島崎謙治「国民皆保険の将来と国保制度改革」（国保新聞 2016 年 1 月 1 日号）

【書籍・刊行物】

島崎謙治『医療政策を問いなおす－国民皆保険の将来』（筑摩書房,2015 年 11 月）

英語字幕入り「国民皆保険前の国民健康保険の展開」DVD の発刊・複製

【学会発表】

島崎謙治「1961 年の国民皆保険の実現プロセス—結核対策との関係を含めて—」第 30 回日本国際保健医療学会（2015 年 11 月 22 日、於金沢大学）のシンポジウム「タテからヨコへ ～リソースをどう使うか～UHC の経験と応用」(座長：林玲子)

【講演】

NCGM・JICA 共催のシンポジウムにおける講演（2015 年 7 月 16 日）、JICA「アジア地域における UHC 達成のための社会保険制度強化研修」における講演（2015 年 11 月 13 日）、NCGM「ケニアの UHC の実現に向けた実務研修」における講演（2016 年 1 月 18 日）等。

（2－2）計画未達成理由、（３）当初の研究計画との変更、については、計画通り進捗しているため非該当である。

課題番号　　：26指1
研究課題名　：日本の国民皆保険の経験を踏まえた開発途上国における
　　UHC実現の要諦に関する研究
主任研究者名：村上　仁
分担研究者名：島崎謙治

キーワード：国民皆保険、インフォーマルセクター、人口構造、感染症、農村医療
研究成果　：
（1）　研究期間を通じての研究計画及び達成目標
　開発途上国がUHCを実現する際の課題と日本の国民皆保険の経験から得られる政策的示唆をマッチングさせることにより、開発途上国のUHCの実現に資する。
（２－１）　平成28年4月1日時点での進捗状況
　予定どおり、①日本の国民皆保険の成功要因に関する歴史分析、②UHCと感染症対策の関係に関する分析・考察、③台湾・韓国・中国との比較研究、等を実施した。

（２－２）　計画通り達成できなかった場合、その理由と対応方法　　非該当
（3）当初の研究計画及び目標の変更がある場合、その理由　　非該当

課題番号　　：26指1
研究課題名　：日本の国民皆保険の経験を踏まえた開発途上国における
　　UHC実現の要諦に関する研究
主任研究者名：松原智恵子
分担研究者名：島崎謙治

本年度の学術業績としては、以下が挙げられる。

【論文】

島崎謙治「日本の国民皆保険の本質と意義」健康保険,2015年5月号,pp. 20-23

島崎謙治「国民皆保険の将来と国保制度改革」（国保新聞2016年1月1日号）

【書籍・刊行物】

島崎謙治『医療政策を問いなおす－国民皆保険の将来』（筑摩書房,2015年11月）

英語字幕入り「国民皆保険前の国民健康保険の展開」DVDの発刊・複製

【学会発表】

島崎謙治「1961年の国民皆保険の実現プロセス―結核対策との関係を含めて―」

第30回日本国際保健医療学会（2015年11月22日、於金沢大学）のシンポジウム

「タテからヨコへ ～リソースをどう使うか～UHCの経験と応用」(座長：林玲子)

【講演】

NCGM・JICA共催のシンポジウムにおける講演（2015年7月16日）、JICA「アジア地域におけるUHC達成のための社会保険制度強化研修」における講演（2015年11月13日）、NCGM「ケニアのUHCの実現に向けた実務研修」における講演（2016年1月18日）等。

課題番号　　：２６指１
研究課題名　：日本から東南アジア、アフリカへの有効なユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（ＵＨＣ）支援の研究
主任研究者名：村上　仁
分担研究者名：小林廉毅

キーワード　：皆保険、アジア、社会経済要因、段階的アプローチ、国民の連帯感
研究成果　　：
（１）研究期間を通じての研究計画及び達成目標
本分担研究では、開発途上国におけるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）について、東アジアや東南アジアの UHC 達成国（進展中の国を含む）における UHC の歴史的経緯や社会経済状況を調査した上で、UHC の実現可能性と持続可能性を高めることにつながる施策・制度について分析し、日本の支援事業として具体化できる方策を考案することを目的とする。
　研究計画としては、東アジアや東南アジアの UHC 達成国（進展中の国を含む）における UHC に向けた政治的意志（political will）、行政基盤の整備の度合い、公的医療保険の現状、国民医療費の規模、経済発展の状況、皆保険に向けた国民の意識の醸成度などについて、既存資料の調査や関係者からの聞き取り調査に基づいて分析を行う。また、UHC においてカバーすべきサービスの優先順位や財源、どのような集団から加入を進めるべきか、また、保険運営実務に必要な人材の規模とその確保・養成のあり方などについても検討する。以上に基づいて、当該国の社会経済情勢を勘案した上で、UHC の実現可能性や持続可能性を高めるための施策・制度設計に向けて、日本の支援事業として具体化できる方策を考案する。

（２－１）平成 28 年度 4 月 1 日時点での進捗状況
タイ、フィリピン、台湾、韓国、日本の UHC の進展状況について、既存資料の調査や関係者からの聞き取り調査を行って各国の UHC の特徴を明らかにした。このうち、比較的短期間で UHC を普及させた台湾については、国民の支持率も高いことから参考になる点が多いことが示唆された。また、タイの事例では、国民の異なる層に対して、段階的に医療保障の枠組みを提供してきたことが、日本の UHC の歴史的経緯と共通していることが示唆された。韓国を対象にした検討においては、財源として保険料のみならず税収（公費）を併用することや、医療保険の優先順位を日常的な疾病治療におくか重症疾患におくかという問題が論点として示唆された。今後、上記の分析をさらに進めて、どのような要因が UHC の導入段階において有用であるか、また持続可能性を高める要因は何かを整理、分析し、結果の取りまとめを行う。

本年度の学術業績としては、以下が挙げられる：
【論文】
なし
【書籍】
小林廉毅．第 10 章 社会保障制度．川上憲人、橋本英樹、近藤尚己編．社会と健康．東京大学出版会、2015；195-208.
【学会発表】
なし
【講演】
小林廉毅．日本における医療保障と医療アクセスの関係－今後の課題．国際医療研究開発費（２６指１）研究報告シンポジウム（一般公開）「医療保障制度：日本の経験を途上国のＵＨＣ支援に生かすには」、2015 年 7 月.

課題番号：26指1
研究課題名： 日本から東南アジア、アフリカへの有効なユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）支援の研究
主任研究者： 村上　仁
分担研究者： 小林　廉毅

台湾及びタイのUHCの現状（1）

	台湾	タイ
人口	約2300万人	約6700万人
GDP （UHC達成時）	約 21000 USドル （約 13000 USドル）	約 6000 USドル （約 2000 USドル）
医療費/GDP(*1)	6%程度	4%程度
保険の名称	全民健康保険（National Health Insurance）	UC（一般の国民、人口の75%） CSMBS（公務員対象） SSS（被用者対象）
UHC達成時期	1995年	2002年（30 baht scheme） 2006年（free UC scheme）
人口カバー率	99%以上	99%
以前のカバー率	約50%（1990年）	約70%（2000年頃）

*1　医療費/GDPは、医療費の定義・範囲により異なる。

台湾及びタイのUHCの現状（2）

	台湾	タイ
UHC以前の公的医療保険	労働者（1950年） 公務員（1958年） 農家（1985年） 低所得世帯（1990年）	LIC（低所得層）（1975年）CSMBS（公務員）（1980年） SSS（被用者）（1990年） Health card（1990年代前半）
保険者（保険運営主体）	政府（National Health Insurance Administration）	政府（制度により管轄が異なる）
財源	保険料（税）（給与の4.9%） その他財源（たばこ税等）	UCについては、一般政府財源（税収）
公平性	給付／保険料の比率が低所得層ほど高い	医療費に占めるOOP(*2)支出の低下：45%（1994）→15%（2010）
医療受診	どの医療機関でも受診可	原則として、登録医療機関
医療費のコントロール	セクター毎（外来、入院、歯科、中医）の包括予算制 入院についてはDRG	包括予算・人頭制（医療機関の大半が公立のため）
特徴	一般住民の満足度調査を毎年4回実施。70-80%を維持。ICカードの導入	2006年、UCは自己負担を廃止
課題	低い診療報酬に対する不満	NCD(*3)増による医療財政圧迫

*2　OOP: Out-of-pocket（家計からの直接支払額）、*3　Non-communicable disease

研究発表及び特許取得報告について

課題番号：　26指1

研究課題名：　日本から東南アジア、アフリカへの有効なユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC)支援の研究

主任研究者名：　村上　仁

論文発表

論文タイトル	著者	掲載誌	掲載号	年
Human resources for health development: toward Universal Health Coverage in Japan	Akashi H., Osanai Y., Akashi R.	BioScience Trends	9(5)	2015年
医療政策を問いなおすー国民皆保険の将来	島崎謙治	筑摩書房	—	2015年
日本の国民皆保険の本質と意義	島崎謙治	健康保険	5月号	2015年
国民皆保険の将来と国保制度改革	島崎謙治	国保新聞	1月1日号	2015年
第10章 社会保障制度.	小林廉毅	川上憲人、橋本英樹、近藤尚己編. 社会と健康. 東京大学出版会	—	2015年

学会発表

タイトル	発表者	学会名	場所	年月
Fact finding study on the effects of health insurance for universal health coverage at a semi-urban area in Lao PDR	Sayavong, C., Matsubara, C., Yokobori, Y., Yamamoto, S., Murakami, H.	The 9th National Health Research Forum (ラオス国家保健研究フォーラム)	ラオス、ビエンチャン	2015年10月
日本とベトナム・ラオスの医療保険：制度比較からみる協力可能性	村上仁、横堀雄太、松原智恵子、明石秀親、山本佐枝子	第30回日本国際保健医療学会	金沢（金沢大学）	2015年11月
Situation analysis of health insurance for universal health coverage (UHC) in Lao PDR	Yokobori, Y., Matsubara, C., Murakami, H., Yamamoto, S., Sayavong, C.	第30回日本国際保健医療学会	金沢（金沢大学）	2015年11月
1961年の国民皆保険の実現プロセス—結核対策との関係を含めて—のシンポジウム「タテからヨコへ ～リソースをどう使うか～UHCの経験と応用」(座長:林玲子)	島崎謙治	第30回日本国際保健医療学会	金沢（金沢大学）	2015年11月

その他発表(雑誌、テレビ、ラジオ等)

タイトル	発表者	発表先	場所	年月日
国民皆保険前の国民健康保険の展開	島崎謙治	英語字幕入りDVD	大学院講義、JICA研修等	2015年

研究発表及び特許取得報告について

日本の国民皆保険の本質―日本の経験の何をどのように伝えるべきか―	島崎謙治	研究報告シンポジウム「医療保障制度：日本の経験を途上国のUHC支援に生かすには」（一般公開）	NCGM大会議室	2015年7月16日
「アジア地域におけるUHC達成のための社会保険制度強化研修」における講演	島崎謙治	JICA能力強化研修	JICA本部	2015年11月13日
Path to Universal Health Coverage -Experiences and Lessons from Japan-	島崎謙治	JICAカウンターパート研修　「ケニアのUHCの実現に向けた実務研修」における講演	NCGMセミナー室	2016年1月18日
日本における医療保障と医療アクセスの関係ー今後の課題.	小林廉毅	研究報告シンポジウム「医療保障制度：日本の経験を途上国のUHC支援に生かすには」（一般公開）	NCGM大会議室	2015年7月16日

特許取得状況について　※出願申請中のものは(　　)記載のこと。

発明名称	登録番号	特許権者(申請者)（共願は全記載）	登録日(申請日)	出願国
該当なし				

※該当がない項目の欄には「該当なし」と記載のこと。
※主任研究者が班全員分の内容を記載のこと。